

## 【別紙】乳がん検診等に関する mif アンケート調査結果

---

### 調査概要

- アンケート名:「乳がん検診等に関する mif(※)アンケート調査」
- 回答者数:1,000 名(年齢:20~60 代の女性、対象地域:全国)
- 回答者セグメント:年齢:5 セグメント(20 代/30 代/40 代/50 代/60 代)、職業:2 セグメント(会社員・派遣社員/主婦・パート・アルバイト)をクロスした計 10 セグメントで 100 名ずつ
- 調査方法:全国 Web アンケート(回答者は mif ベーシック調査パネル他で募集)
- 調査実施日:2020 年 4 月 17 日~4 月 21 日
- 調査内容:乳がん検診の受診履歴、精密検査の必要が発覚した際の家族や職場への相談意向、高濃度乳房や罹患に伴う妊娠・出産や仕事の効率低下など関連知識、教育機会の十分性に関する意識の把握
- 実施主体:株式会社三菱総合研究所(協力:株式会社ワコール、株式会社 Lily MedTech)

※生活者市場予測システム(mif):三菱総合研究所の運営する、生活者 30,000 人、シニア 15,000 人を対象とした、2,000 問からなる国内最大級のアンケートパネルおよび調査システム。

図1 過去2年間で乳がん検診を受診した割合(年代別)

過去2年間でマンモグラフィによる乳がん検診を受けた人の割合は、20代で4.0%、30代で13.5%、40代で47.0%、50代で46.5%、60代で41.5%であった。超音波(エコー)検査のみを受けた人を足すと20代で12.0%、30代で31.0%、40代で58.0%、50代で54.5%、60代で48.5%であった。

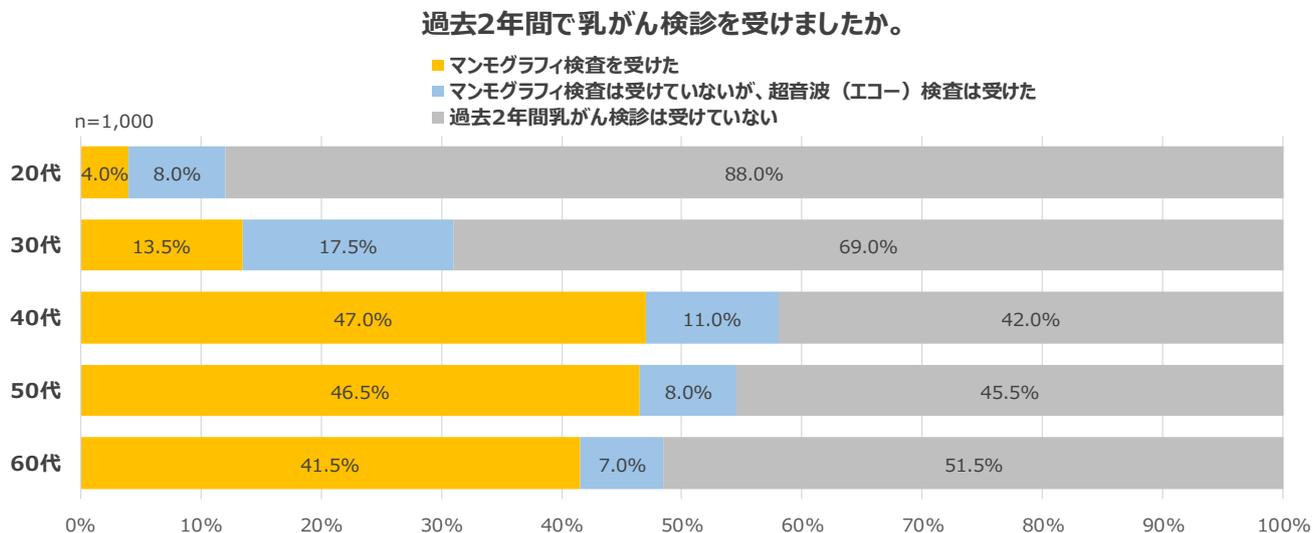


図2 過去に乳がん検診によって精密検査と診断されたことのある割合(年代別、過去に1度も検診を受診したことのない回答者を除く)

乳がん検診を受診したことのある回答者のうち、過去に精密検査と診断されたことのある人の割合は、20代で1.2%、30代で6.4%、40代で17.7%、50代で21.4%、60代で20.0%であった。

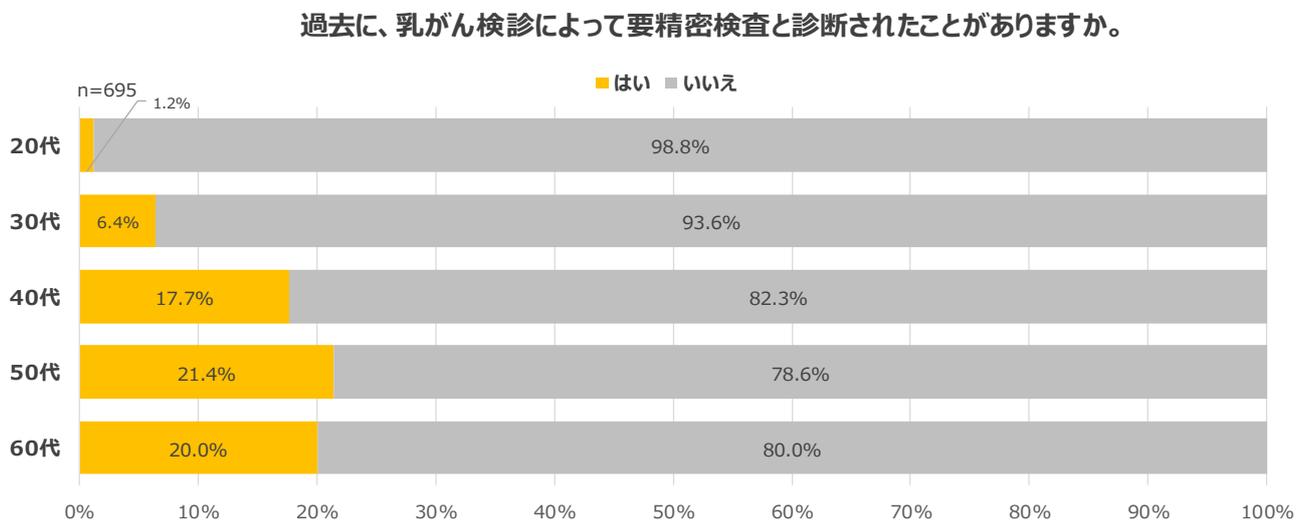


図 3-1 乳がん検診で要精密検査となった人のうち、10人に1人はがんではない(偽陽性)と診断されることを知っていた回答者の割合(全回答者)

乳がん検診で要精密検査となった人のうち、10人に1人はがんではない(偽陽性)と診断されることを知っていた人の割合は、8.7%であった。聞いたことはあるが、割合までは知らなかった人を足すと41.0%であった。

乳がん検診でがんの可能性が確認されると「要精密検査」となります。

ただ、要精密検査者でも、実際にがんと診断される割合は40~50歳代であればおよそ10人に1人です。

逆に言えば10人に9人は「精密検査をしたががんではない」(偽陽性)と診断されます。このことを知っていましたか。

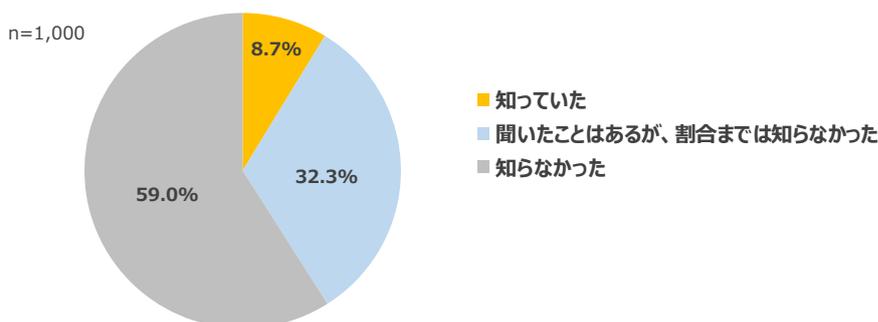


図 3-2 乳がん検診で要精密検査となった人のうち、10人に1人はがんではない(偽陽性)と診断されることを知っていた回答者の割合(年代別)

乳がん検診で要精密検査となった人のうち、10人に1人はがんではない(偽陽性)と診断されることを知っていた人の割合は、20代で2.5%、30代で6.0%、40代で11.0%、50代で10.0%、60代で14.0%であった。

聞いたことはあるが、割合までは知らなかった人を足すと20代で22.5%、30代で30.5%、40代で45.0%、50代で50.5%、60代で56.5%であった。

乳がん検診でがんの可能性が確認されると「要精密検査」となります。

ただ、要精密検査者でも、実際にがんと診断される割合は40~50歳代であればおよそ10人に1人です。

逆に言えば10人に9人は「精密検査をしたががんではない」(偽陽性)と診断されます。このことを知っていましたか。

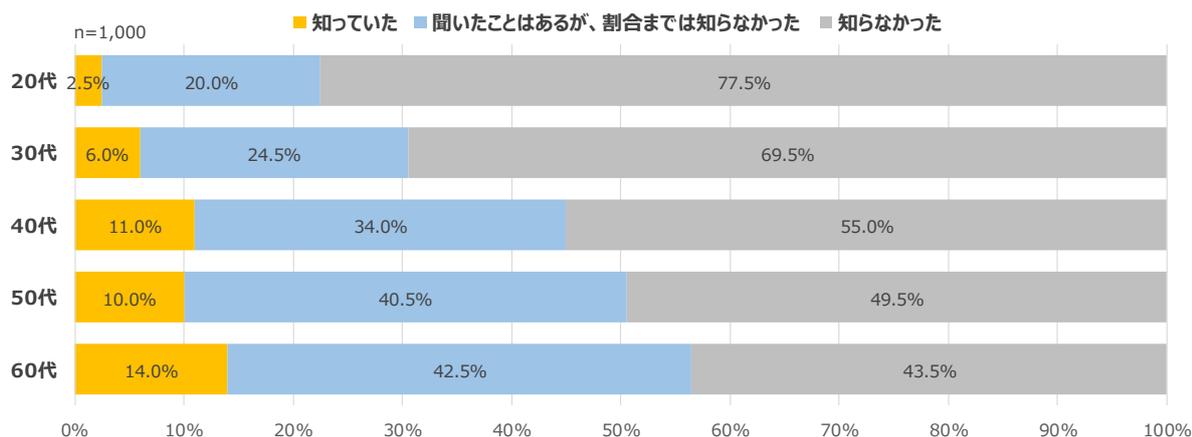


図 4-1 高濃度乳房(デンスブレスト)について知っていた回答者の割合(全回答者)

高濃度乳房(デンスブレスト)について知っていた回答者の割合は、10.1%であった。名前は知っているが、意味は知らなかった人を足すと21.4%であった。

高濃度乳房(デンスブレスト)について知っていますか。

40代頃までの若い女性に多くみられ、乳腺が発達しているために乳がん検診でマンモグラフィを撮像しても、しこりなどの異常所見が見つけにくい乳房のことで、日本人は欧米人に比べて該当する女性の割合が高いと言われています。

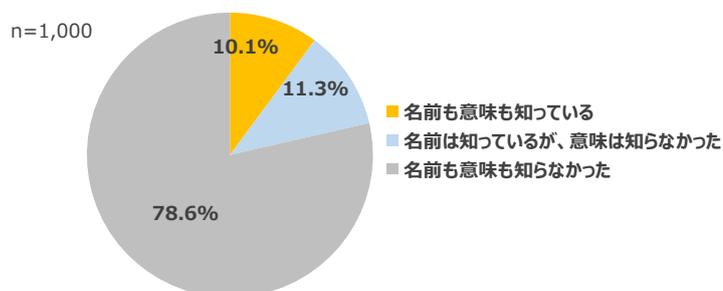


図 4-2 高濃度乳房(デンスブレスト)について知っていた回答者の割合(年代別)

高濃度乳房(デンスブレスト)について知っていた回答者の割合は、20代で5.0%、30代で9.0%、40代で11.0%、50代で16.0%、60代で9.5%であった。

名前は知っているが、意味は知らなかった人を足すと20代で10.5%、30代で21.0%、40代で24.0%、50代で31.5%、60代で20.0%であった。

高濃度乳房(デンスブレスト)について知っていますか。

40代頃までの若い女性に多くみられ、乳腺が発達しているために乳がん検診でマンモグラフィを撮像しても、しこりなどの異常所見が見つけにくい乳房のことで、日本人は欧米人に比べて該当する女性の割合が高いと言われています。

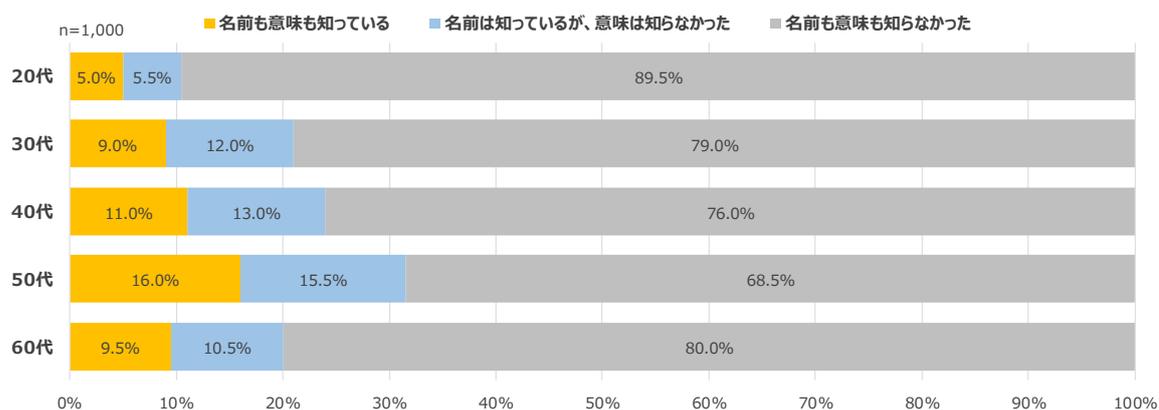


図 5-1 乳がん手術後の「長期間の投薬治療」と、「妊娠・出産」や「仕事」への影響について知っていた回答者の割合(全回答者)

乳がん手術後の「長期間の投薬治療」と、「妊娠・出産」や「仕事」への影響について知っていた回答者の割合は、18.0%であった。「長期間の投薬治療」のことは知っていたが、「仕事」への影響は知っていたが、「妊娠・出産」への影響は知らなかった、「長期間の投薬治療」のことは知っていたが、「妊娠・出産」への影響は知っていたが、「仕事」への影響は知らなかった、「長期間の投薬治療」のことは知っていたが、「妊娠・出産」や「仕事」への影響については知らなかった人を足すと39.8%であった。

**乳がんは手術後にホルモン剤の投薬治療を5年間以上続ける必要があります。**

**この期間は妊娠・出産、薬の副作用による仕事の効率低下など、**

**人生設計や生活への影響が大きい可能性があります。長期間の投薬治療のことで、その影響について知っていましたか。**

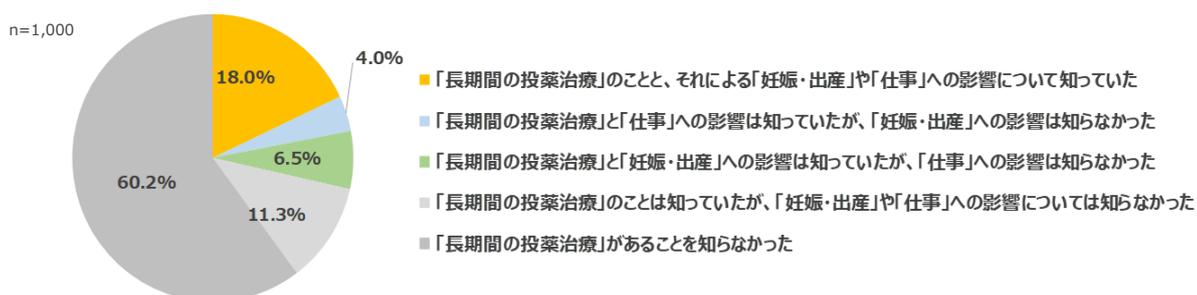


図 5-2 乳がん手術後の「長期間の投薬治療」と、「妊娠・出産」や「仕事」への影響について知っていた回答割合(年代別)

乳がん手術後の「長期間の投薬治療」と、「妊娠・出産」や「仕事」への影響について知っていた回答者の割合は、20代で9.0%、30代で12.5%、40代で21.5%、50代で28.0%、60代で19.0%であった。

「長期間の投薬治療」について知ってはいるが、「妊娠・出産」と「仕事」の両方またはいずれかの影響について知らなかった人(「長期間の投薬治療」と「仕事」への影響は知っていたが「妊娠・出産」への影響は知らなかった、「長期間の投薬治療」と「妊娠・出産」への影響は知っていたが「仕事」への影響は知らなかった、「長期間の投薬治療」のことは知っていたが「妊娠・出産」や「仕事」への影響については知らなかった人の合計)の割合は、20代で17.5%、30代で19.0%、40代で22.0%、50代で22.0%、60代で28.5%であった。

**乳がんは手術後にホルモン剤の投薬治療を5年間以上続ける必要があります。**

**この期間は妊娠・出産、薬の副作用による仕事の効率低下など、**

**人生設計や生活への影響が大きい可能性があります。長期間の投薬治療のことで、その影響について知っていましたか。**

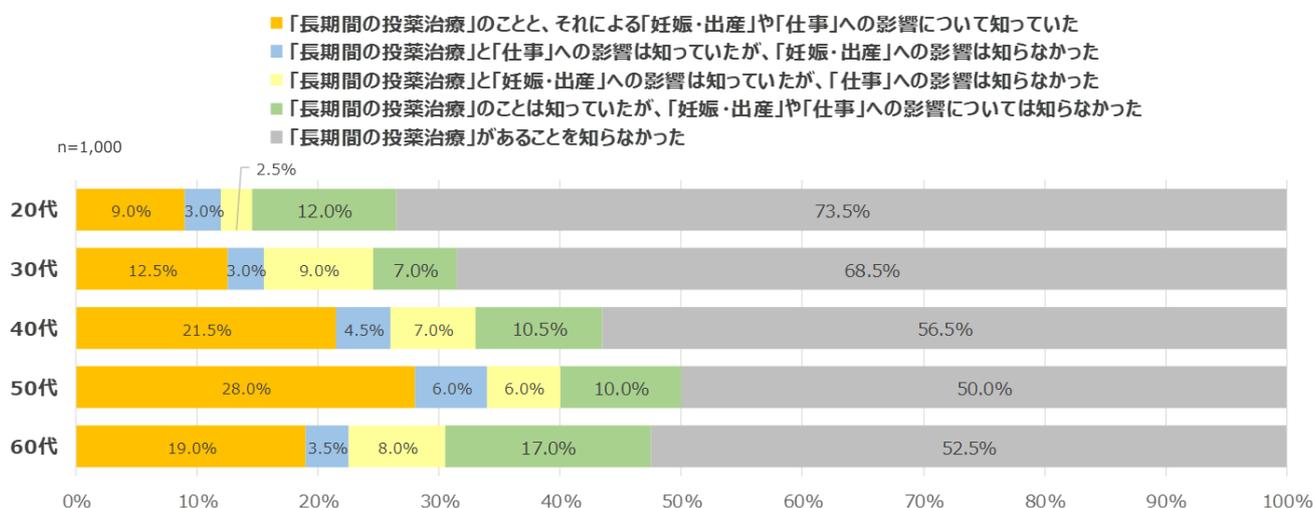


図 6-1 乳房に関する美容と乳がんの簡易チェックを同時に受けられるサービスについて、サービスを受けたいと思う頻度(全回答者)

乳房に関する美容と乳がんの簡易チェックを同時に受けられるサービスについて、サービスを受けたいと思う頻度の回答者のうち、「1年に1回行いたい」、「半年に1回行いたい」、「3カ月に1回行いたい」、「毎月でも行いたい」、と回答した人の割合の合計は、35.3%であった。

より美しい乳房のカタチを保つためのチェックサービスによって、自然と乳がんの簡易チェックもできるようになる可能性があります。  
乳房に関する美容と乳がんのチェックを同時に受けられるサービスがあれば、受けたいと思いますか。

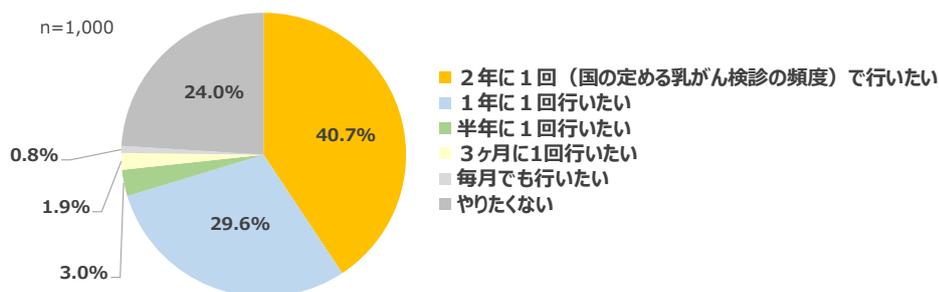


図 6-2 乳房に関する美容と乳がんの簡易チェックを同時に受けられるサービスについて、サービスを受けたいと思う頻度(年代別)

乳房に関する美容と乳がんの簡易チェックを同時に受けられるサービスについて、サービスを受けたいと思う頻度の回答者のうち、「1年に1回行いたい」、「半年に1回行いたい」、「3カ月に1回行いたい」、「毎月でも行いたい」、と回答した人の割合の合計は、20代で33.0%、30代で43.5%、40代で38.5%、50代で33.0%、60代で28.5%であった。

より美しい乳房のカタチを保つためのチェックサービスによって、  
自然と乳がんの簡易チェックもできるようになる可能性があります。  
乳房に関する美容と乳がんのチェックを同時に受けられるサービスがあれば、受けたいと思いますか。

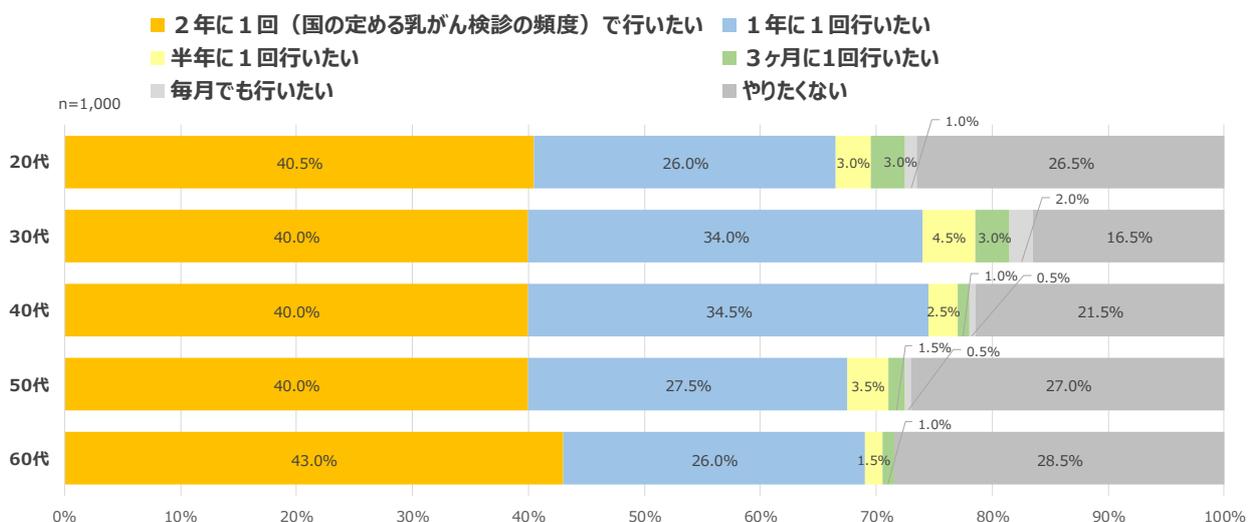


図7 過去2年間で乳がん検診を受診したか、しなかった回答者の割合(年代別)

過去に受診経験はあるが、直近2年では受診していない回答者の割合は、20代で30.0%、30代で23.5%、40代で24.0%、50代で29.5%、60代で36.5%であった。

過去2年間の各世代の乳がん検診受診率

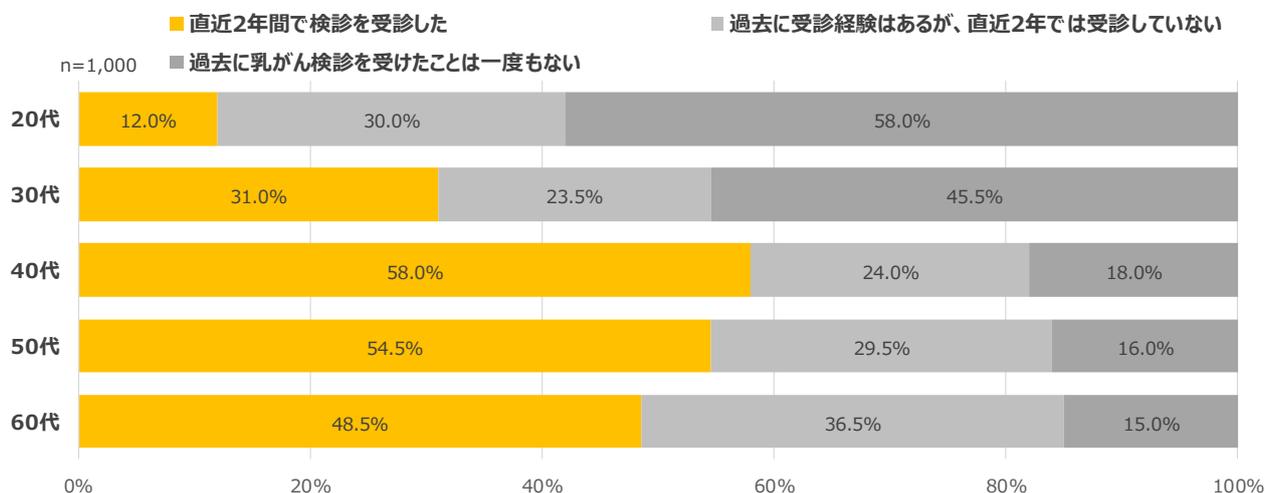


図8 乳がん検診の受診頻度やがんと診断されたときの対応をあらかじめ考えている回答者の割合(年代別)

乳がん検診の受診頻度やがんと診断されたときの対応をあらかじめ考えている回答者のうち、「自分で考え受診している」、「勤務先または自治体が推奨するやり方でよいと思い受診している」と回答した人の割合の合計は、20代で25.0%、30代で35.0%、40代で61.0%、50代で57.0%、60代で63.0%であった。

がん検診の受診について、何年おきに受けるか、もしがんが見つかったらどう対応したいか、などをあらかじめ考えて受診していますか。

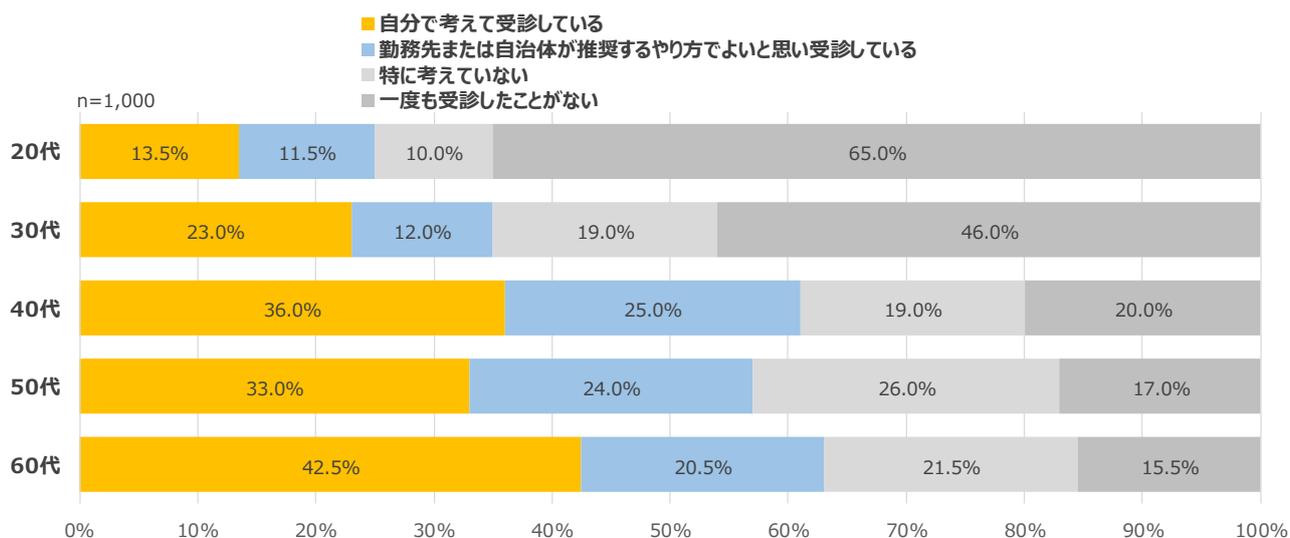


図9 乳がんにかかった社員に対する勤務先企業の就業継続支援の十分さに対する評価(年代別、会社員・派遣社員のみ)

乳がんにかかった社員に対する勤務先企業の就業継続支援の十分さについて、「十分である」と回答した人の割合は、20代で5.0%、30代で6.0%、40代で10.0%、50代で8.0%、60代で11.0%であった。

乳がんなどの長期間の治療や経過観察が必要な一方で仕事は続けられるような病気になった際、あなたの勤めている企業における就業継続への支援は十分ですか。

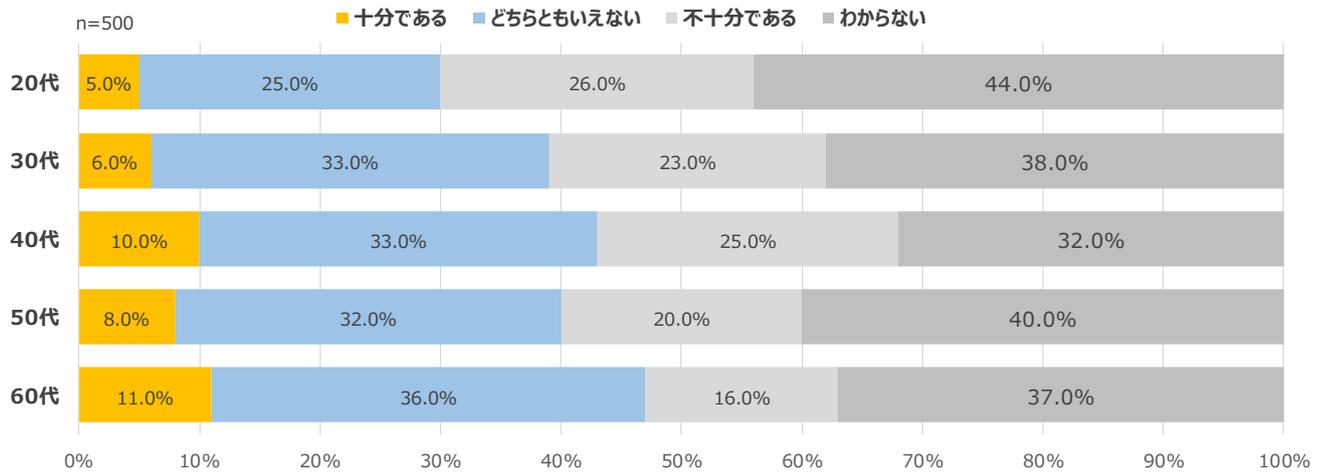
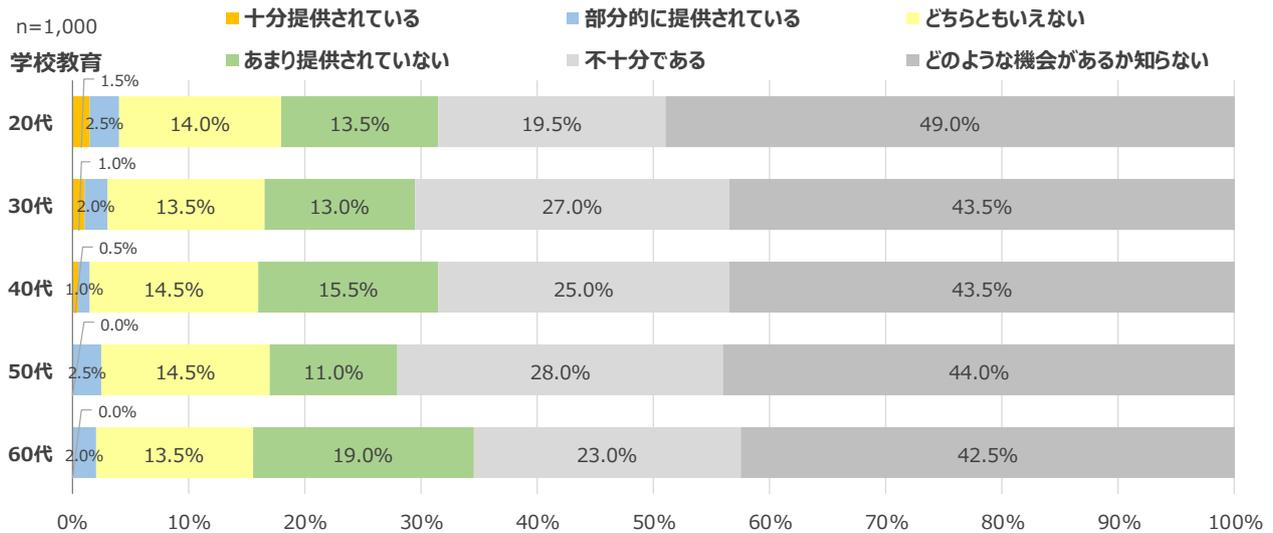


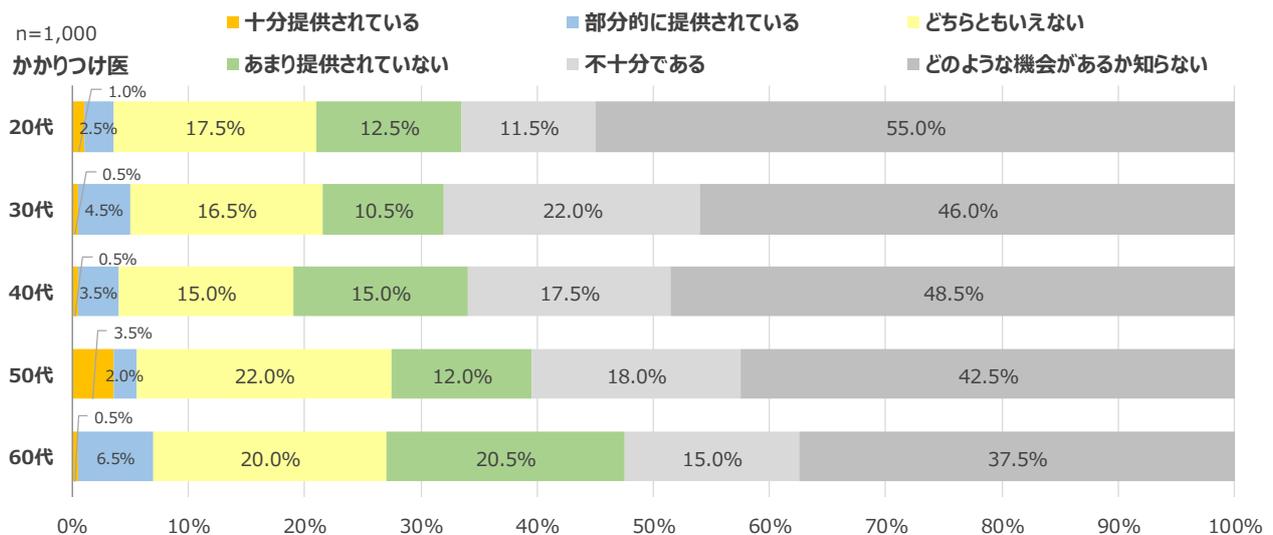
図 10 乳がんの関連知識について、知識習得や教育に関する機会の十分さに対する評価(年代別)

乳がんの関連知識について、知識習得や教育に関する機会の十分さについて、「十分である」と回答した人の割合は、「学校教育」については20代で1.5%、30代で1.0%、40代で0.5%、50代で0.0%、60代で0.0%、「かかりつけ医」については20代で1.0%、30代で0.5%、40代で0.5%、50代で3.5%、60代で0.5%、「職場」については20代で1.0%、30代で0.5%、40代で1.0%、50代で0.5%、60代で1.0%、「自治体」については20代で0.5%、30代で1.0%、40代で1.0%、50代で2.0%、60代で2.5%であった。

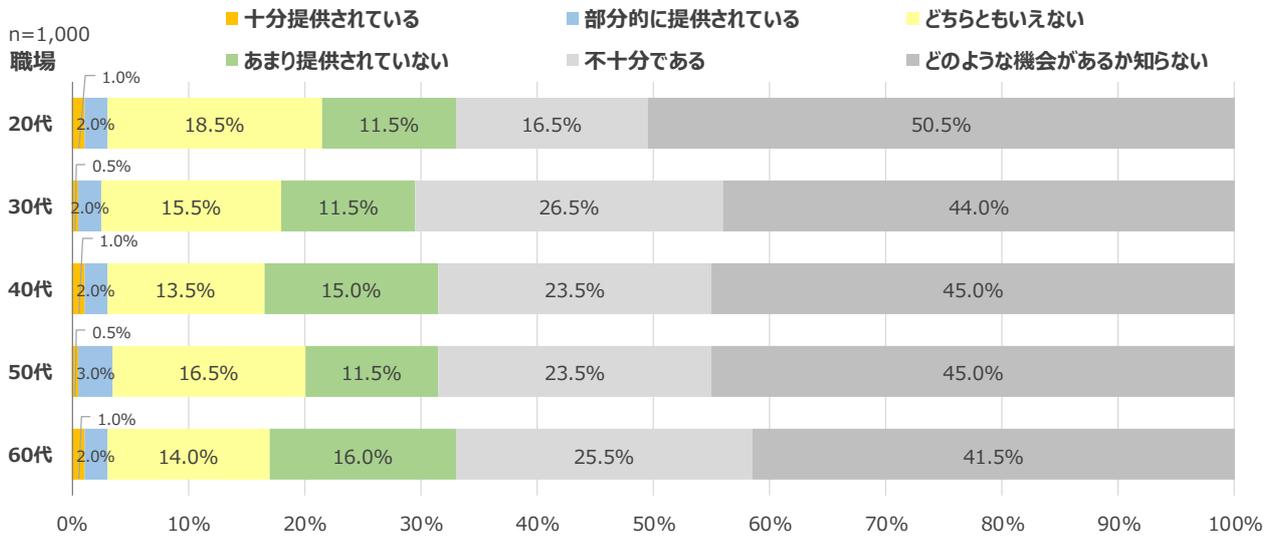
乳がんの検診・治療や罹患に伴う妊娠・出産や仕事の効率低下などへの影響について、知識や教育を受ける機会は十分提供されていると思いますか。



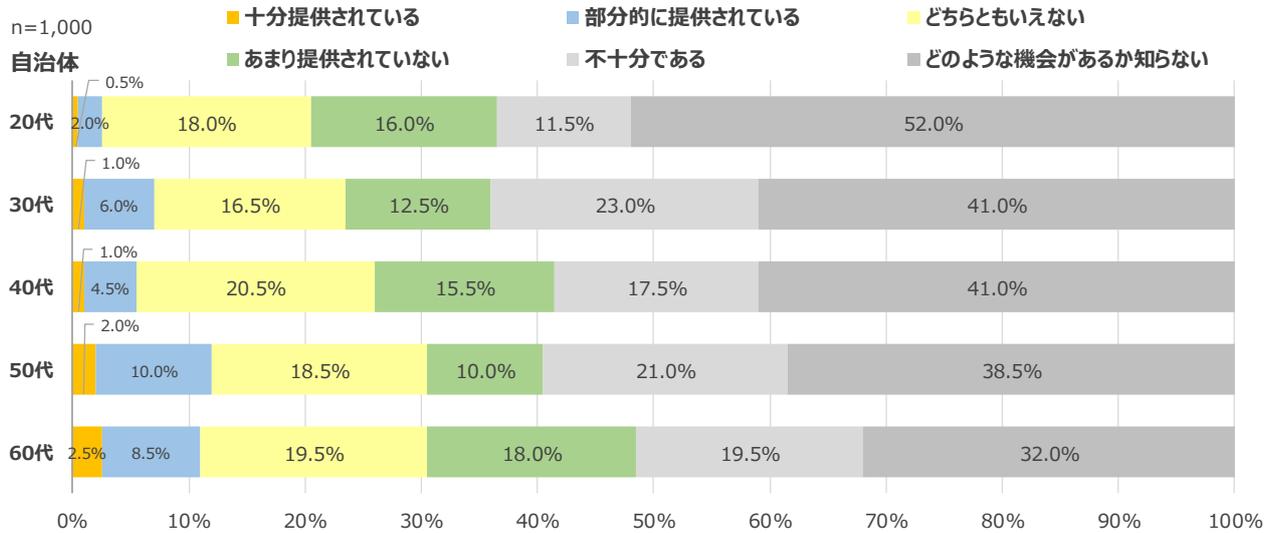
乳がんの検診・治療や罹患に伴う妊娠・出産や仕事の効率低下などへの影響 について、知識や教育を受ける機会は十分提供されていると思いますか。



乳がんの検診・治療や罹患に伴う妊娠・出産や仕事の効率低下などへの影響 について、  
知識や教育を受ける機会は十分提供されていると思いますか。



乳がんの検診・治療や罹患に伴う妊娠・出産や仕事の効率低下などへの影響 について、  
知識や教育を受ける機会は十分提供されていると思いますか。



以上